

## 住まいの衛生に関する短大生の意識について

宮沢 モリエ

(大阪青山短大)

**目的** 現在、シックハウス症候群が問題になっている。アレルギーの原因には、新築の住宅において健康被害をもたらす有害な室内環境の存在、その他ではダニやカビ等の存在がある。気密性の高い住宅、住宅材料の変化、周囲の環境変化等により、様々な影響を我々は受けている。そこで、住まいの衛生に対する若者の意識と生活状況を調査し、今後の住まい方について考察を行う。

**方法** 短期大学生を対象に1998年11月にアンケート調査を行った。有効票は158、調査内容は、現在の住環境、日常生活、アレルギーの有無、将来の住宅購入等である。

**結果** 調査対象者における住まいの立地条件は住宅密集地に住んでいる人が最も多く、94人であった。家の近くの空気が悪いと答えたのは全体の32人である。約30%がアレルギーの体験があり、住まいのほこり、ダニ、ペット等を原因としている。現在症状のない人では、掃除をよくする、部屋がきれいになったことから、過去にあったアレルギーが今はないと答えている。新築の家に入った時、臭い等で気分が悪くなったのは約20%であり、壁材等の接着剤等の影響によって頭痛やアレルギーになった人はわずかに4人であった。将来の家の購入の際、無害な材料を使った健康的な住宅を購入したいと考える学生は、安ければ購入すると答えた者が多く、学生達にとってシックハウス症候群が必ずしも身近ではないため現実的には価格の安さを求めている。また、衛生的な知識は多少とも、身につけているが、安全で健康的な住宅を切実な問題としては考えていない。